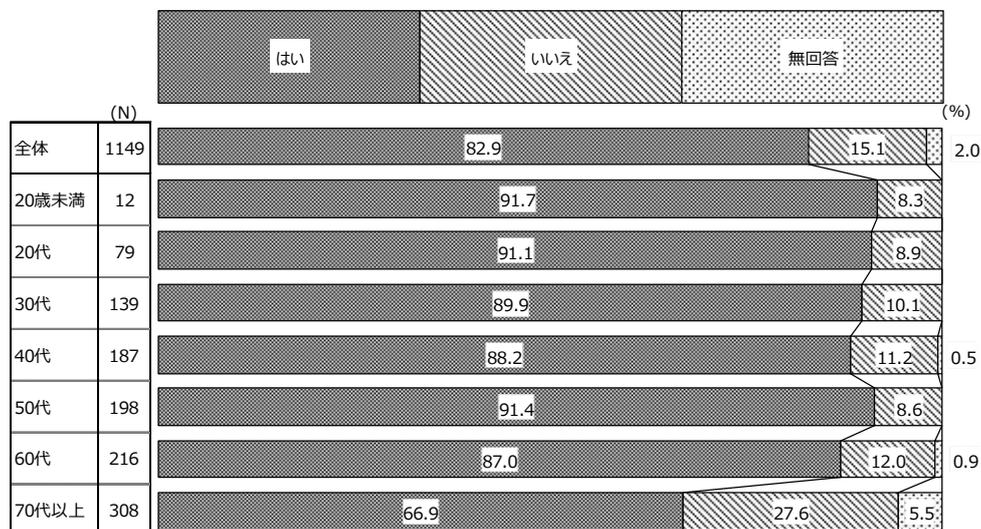


F 性の多様性について

(1) セクシュアル・マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知状況

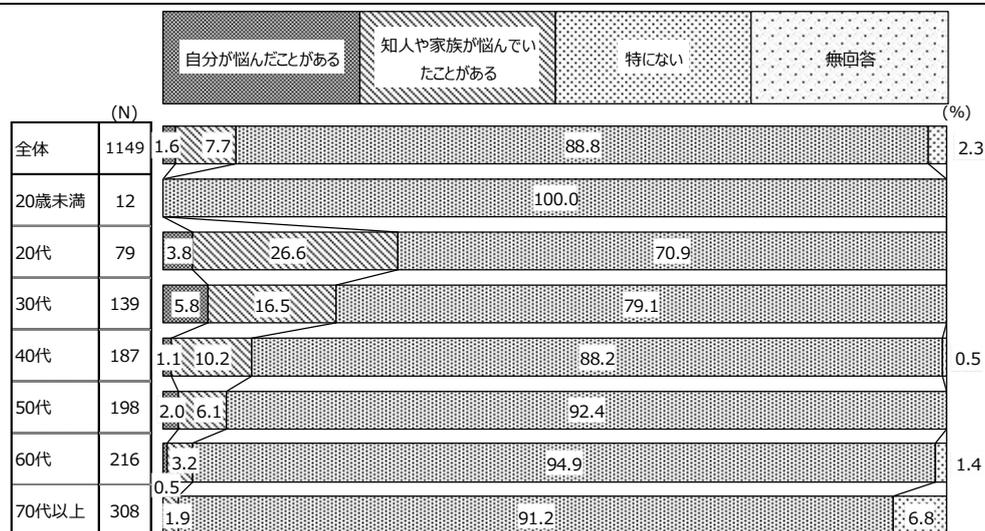
Q19 あなたはセクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉を知っていますか。(〇は1つ)



セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)という言葉の認知度は82.9%となっている。年代別でみると、20代から60代の認知度は9割程度と高いが、70代以上では66.9%にとどまっている。

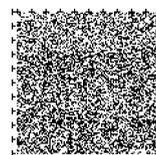
(2) 身体・心の性、性的指向に悩んだり、身近で悩んでいる人がいた経験

Q20 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだり、あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。(〇はいくつでも)



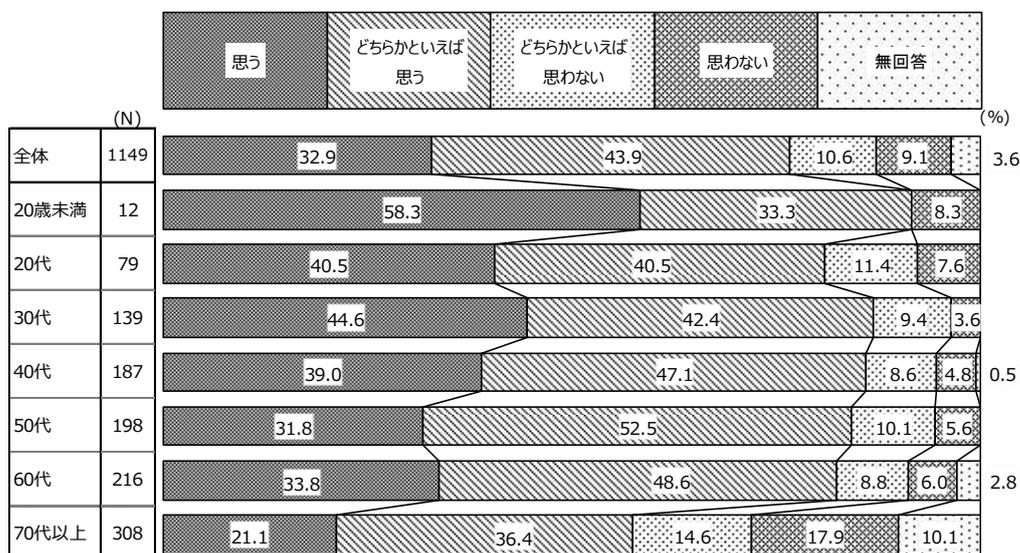
身体・心の性、性的指向については、「自分が悩んだことがある」が1.6%、「知人や家族が悩んでいたことがある」が7.7%となっている。

年代別でみると、20代・30代で「自分が悩んだことがある」と「知人や家族が悩んでいたことがある」が高くなっている。



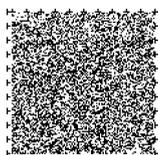
(3) セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

Q21 現在、セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つ)



セクシュアル・マイノリティ(またはLGBT等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思う(「思う」と「どちらかといえば思う」の合計)は全体の76.8%を占めている。

年代別で見ると、「思う」と「どちらかといえば思う」の合計は20代~60代が8割以上で、30代が87.0%でもっとも高くなっている。

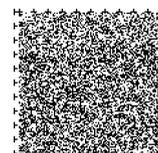


(4) セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

Q21-1 Q21で「1. 思う」「2. どちらかと言えば思う」とお答えの方におたずねします。セクシュアル・マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

	n	つ学校 いで教 正育し の 知 識 を 教 え る 多 様 性 に	解消 への 取 組 み を 明 記 す る	ノリ テ イ の 取 組 み を 明 記 す る	法 律 等 に 、 セ ク シ ユ ア ル ・ マ イ ノ リ テ ィ	境 場 を 充 実 さ せ 、 周 知 す	企 業 な ど の 取 組 み を す い 職 場 環	生 徒 や 市 民 へ の 対 応 を 想 定 し 、 小 中 高	相 談 窓 口 等 を 充 実 さ せ 、 周 知 す	行 政 が 市 民 等 へ 周 知 啓 発 を 行 う	え た 事 者 や 支 援 団 体 、 意 見 交 換 を 行 う	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	882	61.7	27.0	24.4	20.5	10.5	9.6	6.6	7.8	2.3	1.4			
20歳未満	11	63.6	36.4	45.5	18.2	9.1	-	-	9.1	-	-			
20代	64	65.6	32.8	31.3	25.0	1.6	6.3	9.4	4.7	3.1	1.6			
30代	121	63.6	24.8	24.8	24.0	4.1	6.6	3.3	8.3	5.8	0.8			
40代	161	64.0	24.8	26.1	24.2	7.5	11.2	5.6	7.5	2.5	-			
50代	167	58.1	34.1	25.7	15.0	9.6	4.2	5.4	10.2	3.0	0.6			
60代	178	64.6	27.0	24.2	23.6	11.2	11.2	9.0	6.7	-	-			
70代以上	177	57.6	20.9	16.9	15.8	21.5	15.8	7.9	7.9	1.1	5.1			

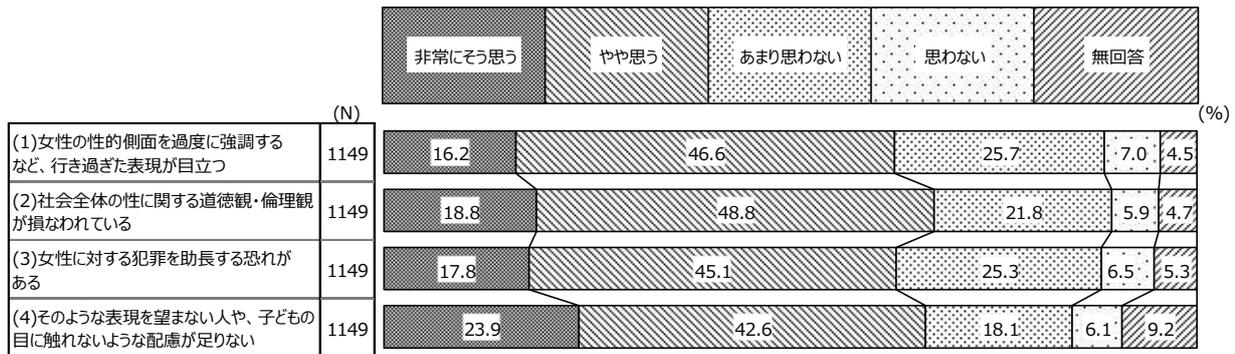
セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が61.7%と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が27.0%で続いている。



G 男女の人権について

(1) メディアにおける性表現・暴力表現についての考え

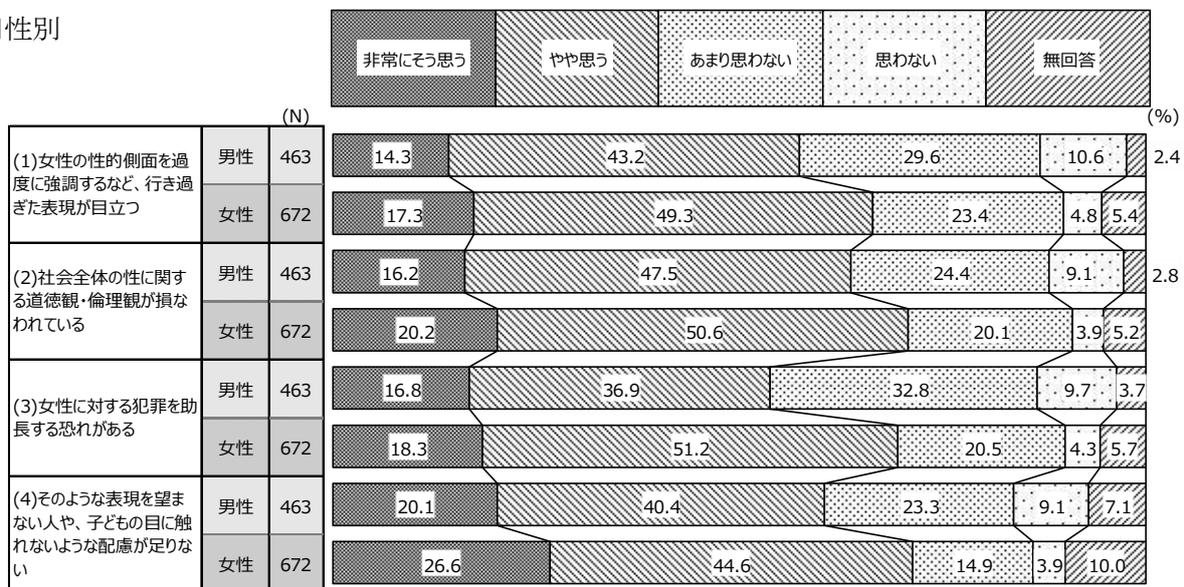
Q22 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性表現・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。(1)～(4)の各項目につき○は1つ
また、その他にご意見がありましたら、(5)の欄にご記入ください。



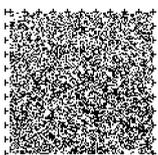
メディアにおける性表現・暴力表現については、『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』において、「非常にそう思う」と「やや思う」の合計である「そう思う(計)」は62.8%、『社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている』で67.6%、『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』で62.9%、『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』が66.5%となっており、全般的に否定的な様子が見えてくる。

その他では、インターネットで簡単に不適切な情報も見られるようになっている、規制が必要、正しい知識を学校で教えるべきなどの意見があった。

■性別



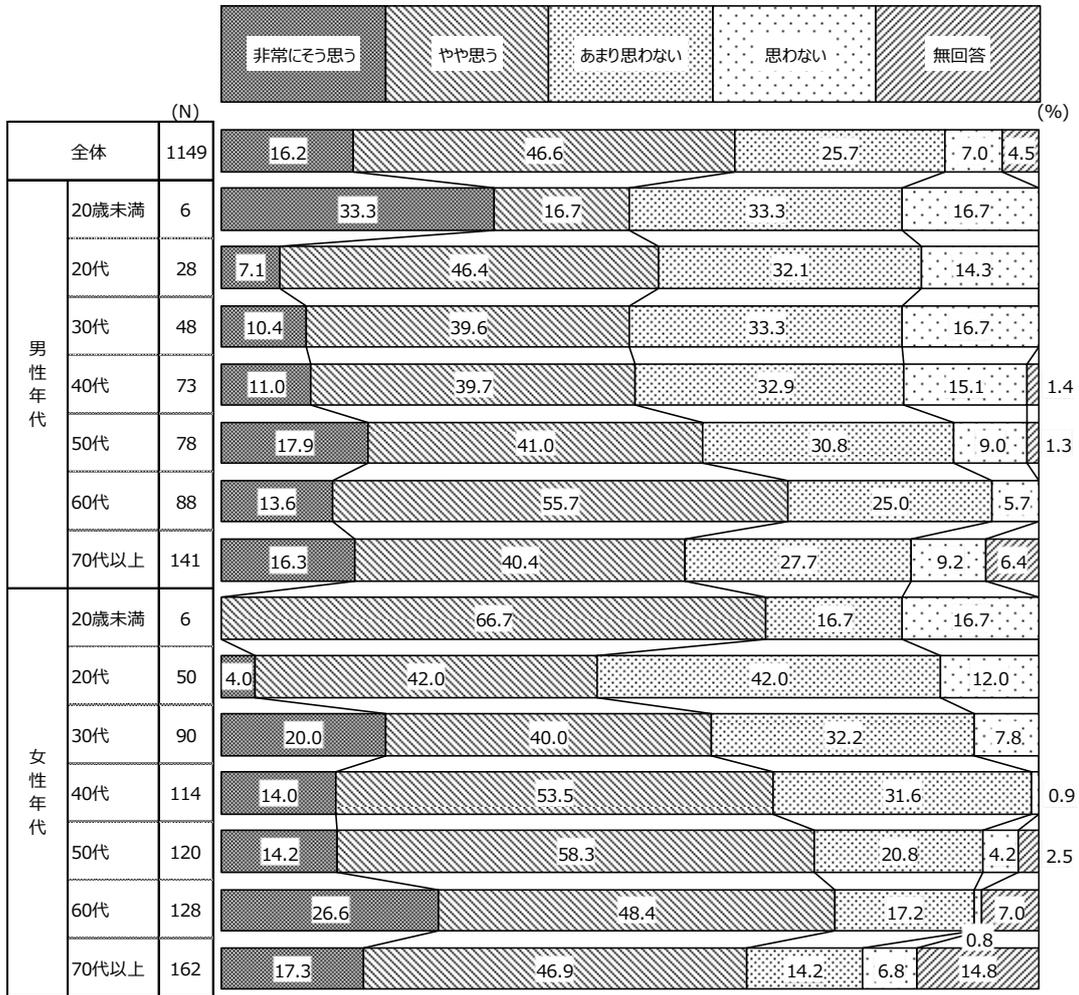
「そう思う(計)」を性別で見ると、いずれも女性が男性を上回っており、特に『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』は女性(69.5%)が男性(53.7%)より15.8ポイント高くなっている。



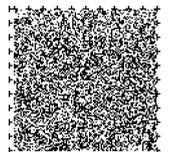
■性別・年代別

G (1)-(1)

女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



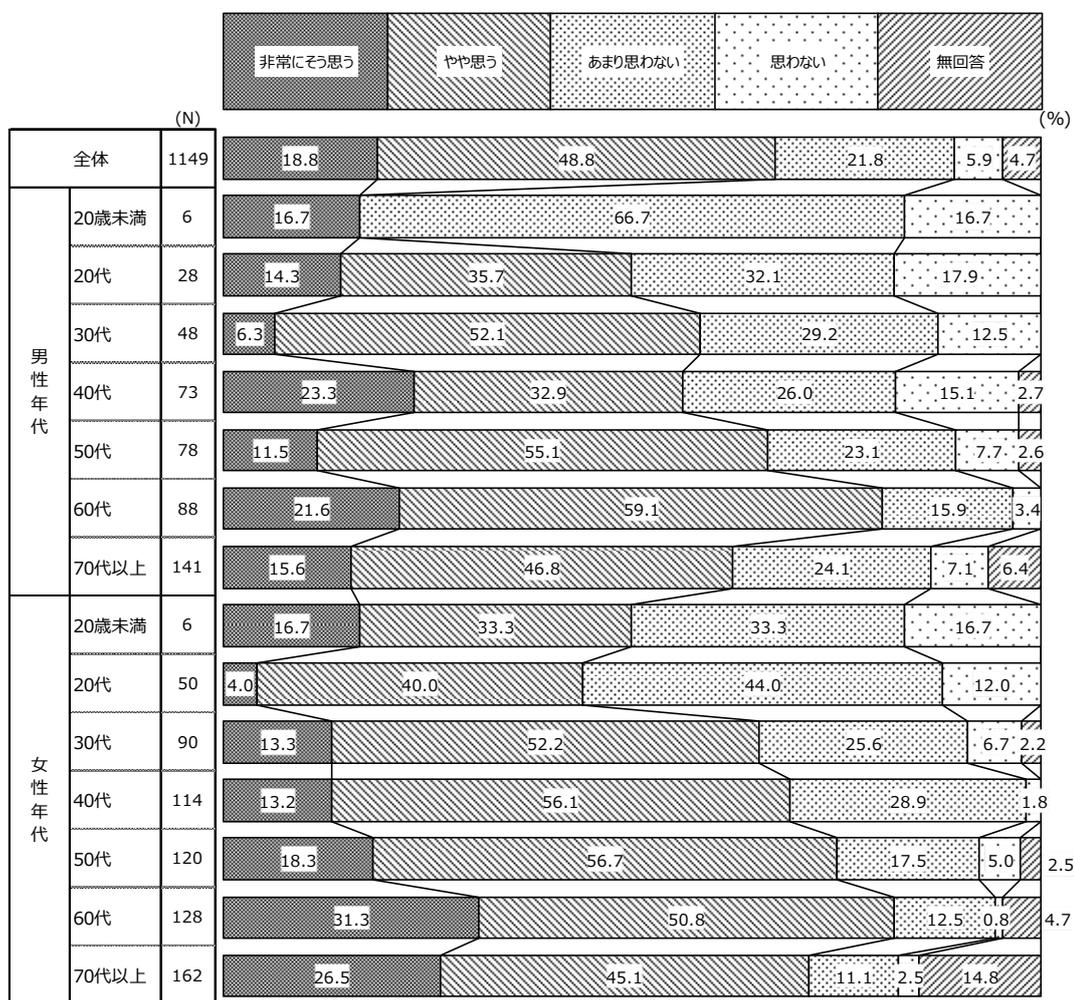
『女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ』を性別・年代別で見ると、男性60代、女性50代・60代で「そう思う (計)」が69.3~75.0%と高くなっている。一方、「思わない」と「あまり思わない」の合計である「思わない (計)」が男性30代 (50.0%)、男性40代 (48.0%)、女性20代 (54.0%) で5割前後と高くなっている。



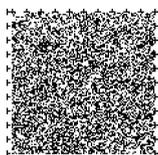
■性別・年代別

G (1)-(2)

社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている



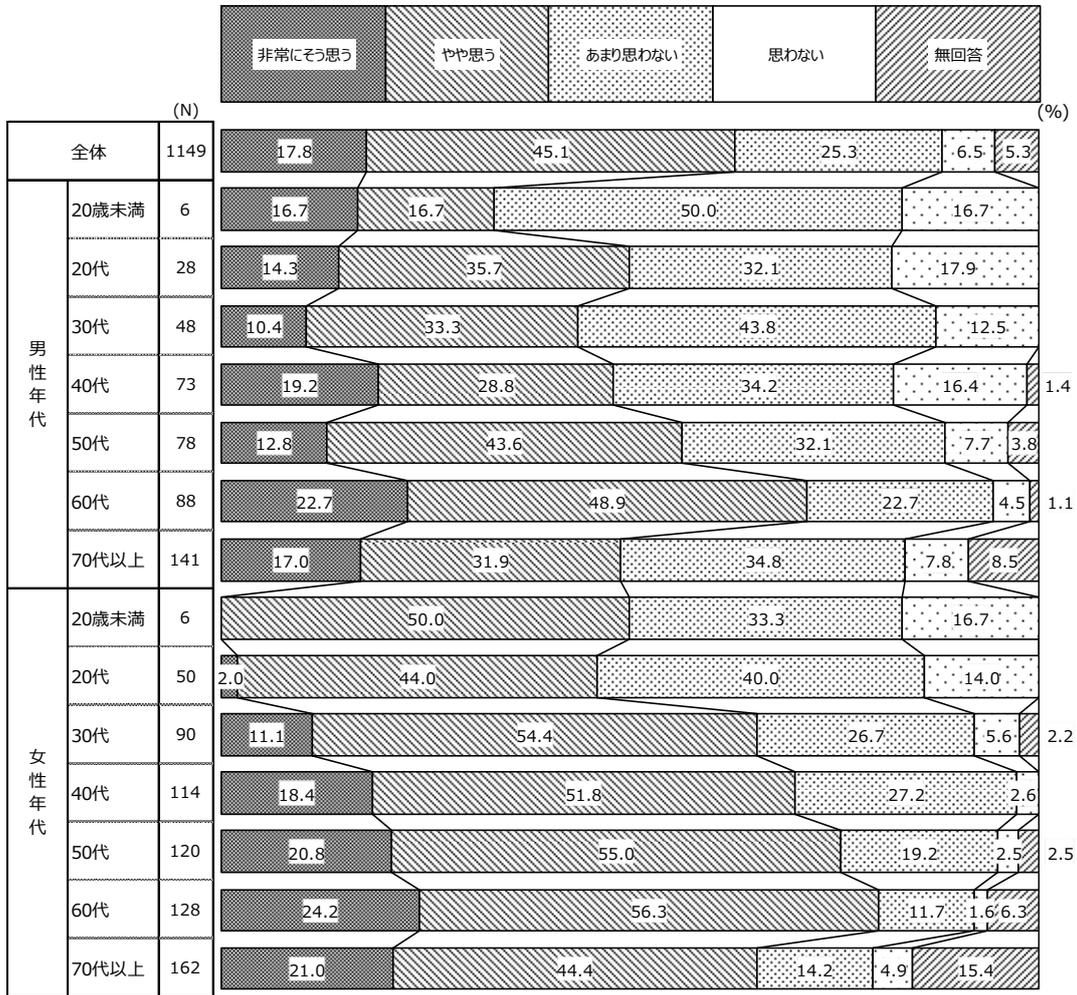
『社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている』を性別・年代別で見ると、男性60代、女性50代・60代・70代以上で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性、女性ともに20代で5割と高くなっている。



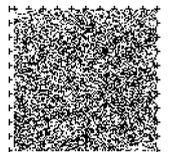
■性別・年代別

G (1)-(3)

女性に対する犯罪を助長する恐れがある



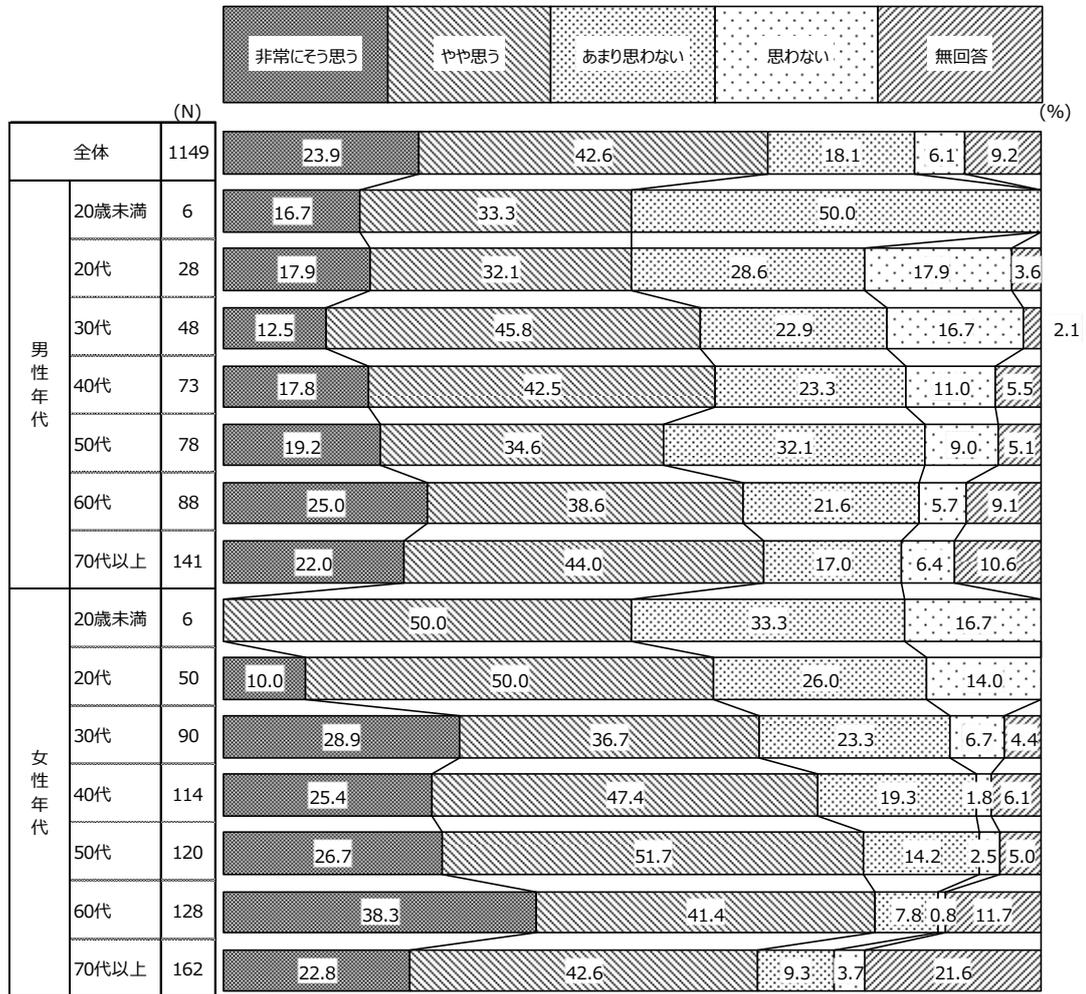
『女性に対する犯罪を助長する恐れがある』を性別・年代別でみると、男性60代、女性40代～60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性20代～40代、女性20代で5割と高くなっている。



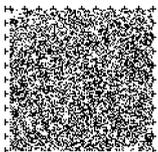
■性別・年代別

G (1)-(4)

そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない

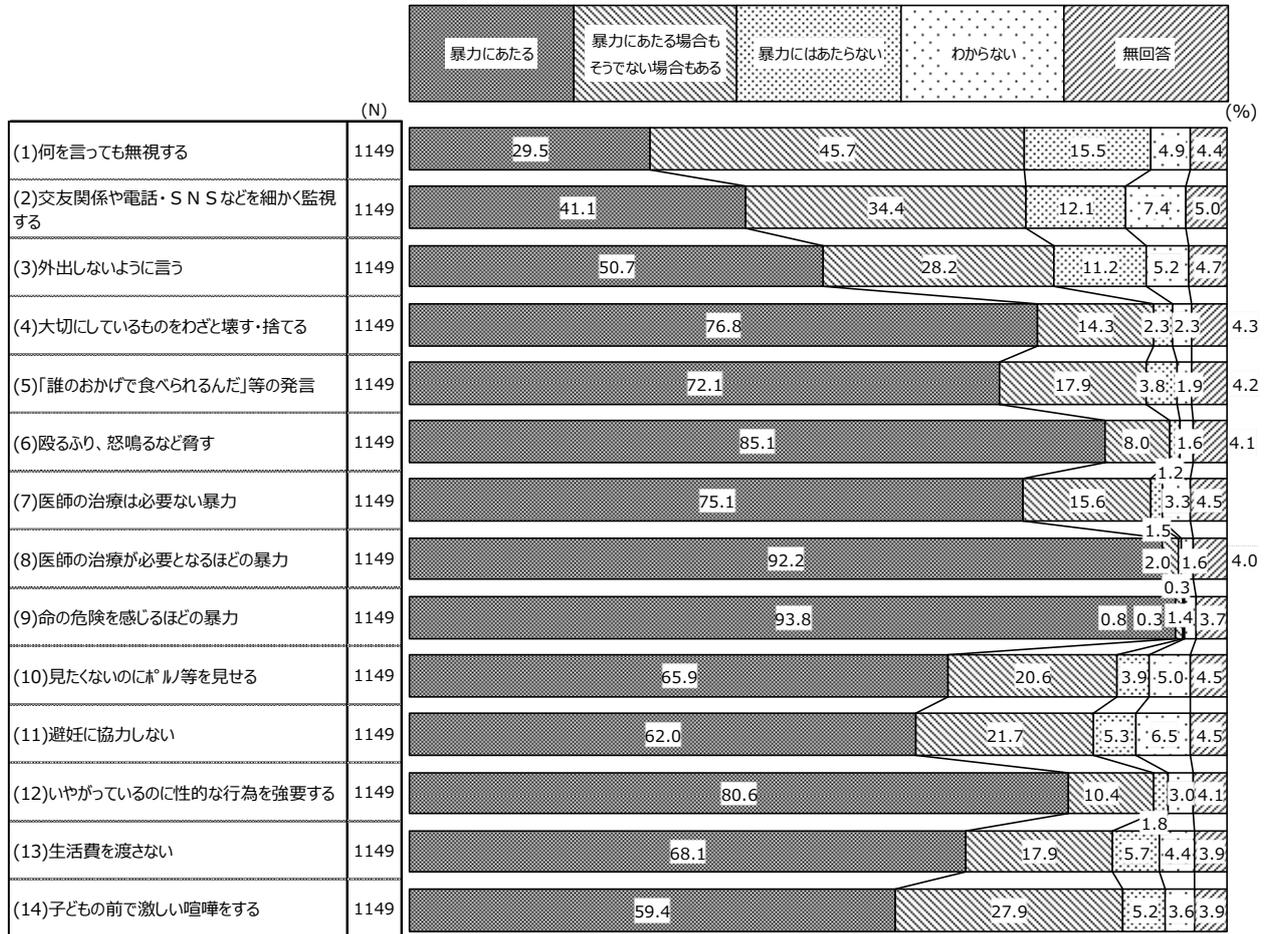


『そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない』を性別・年代別で見ると、女性40代～60代で「そう思う（計）」が7～8割にのぼっている。一方、「思わない（計）」が男性20代・30代・50代、女性20代で4割前後となっている。



(2) 配偶者・パートナー間での暴力について

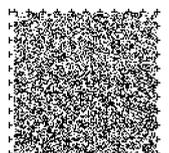
Q23 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(14)の各項目につき○は1つ)



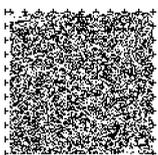
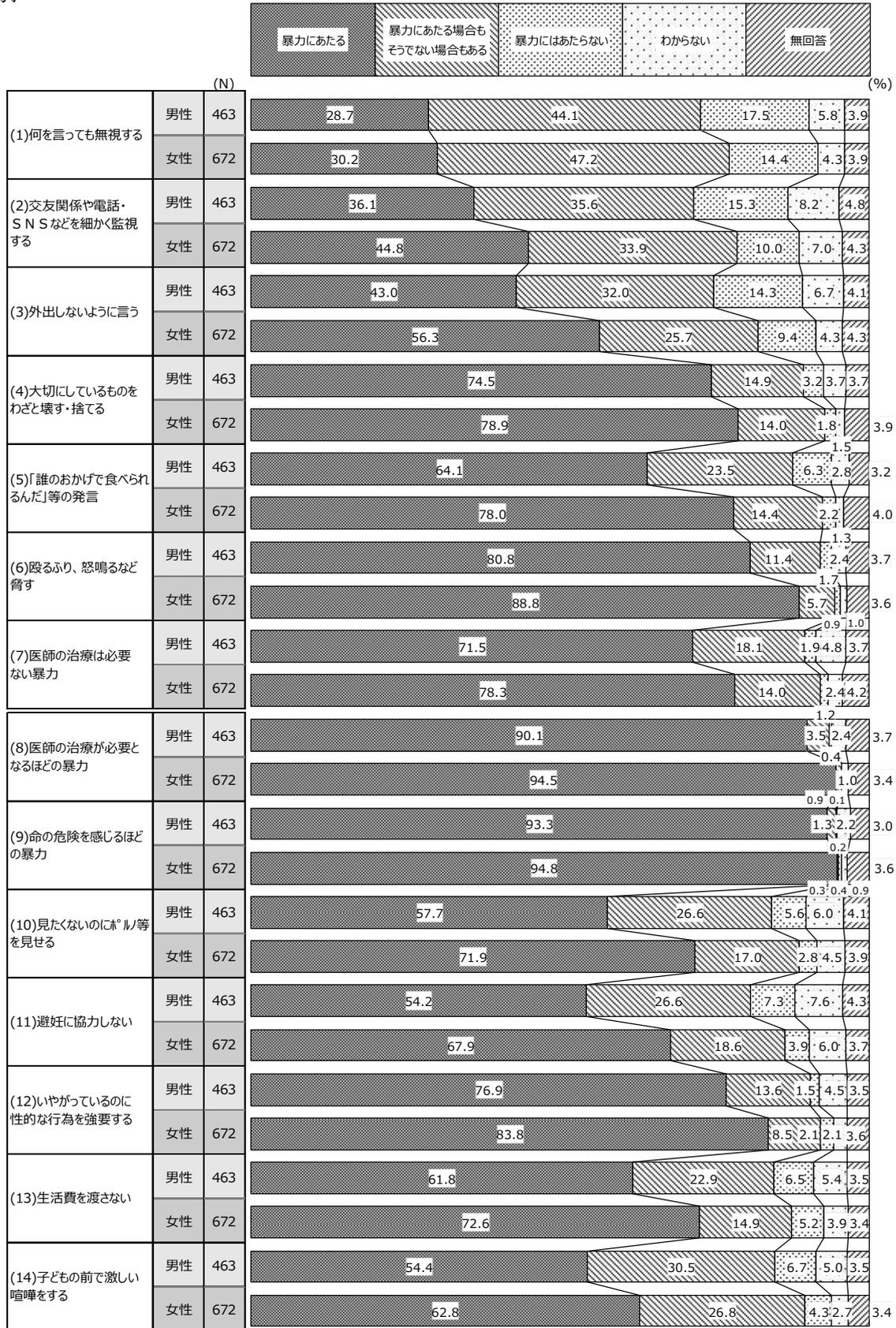
配偶者・パートナー間で暴力だと思われることについては、「暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」の合計が、すべての項目で7割以上にのぼっている。

「暴力にあたる」は『命の危険を感じるほどの暴力』(93.8%)『医師の治療が必要となるほどの暴力』(92.2%)で9割を超え、以下、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』(85.1%)、『いやがっているのに性的な行為を強要する』(80.6%)、『大切にしているものをわざと壊す・捨てる』(76.8%)、『医師の治療は必要ない暴力』(75.1%)の順となっている。

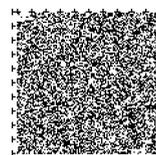
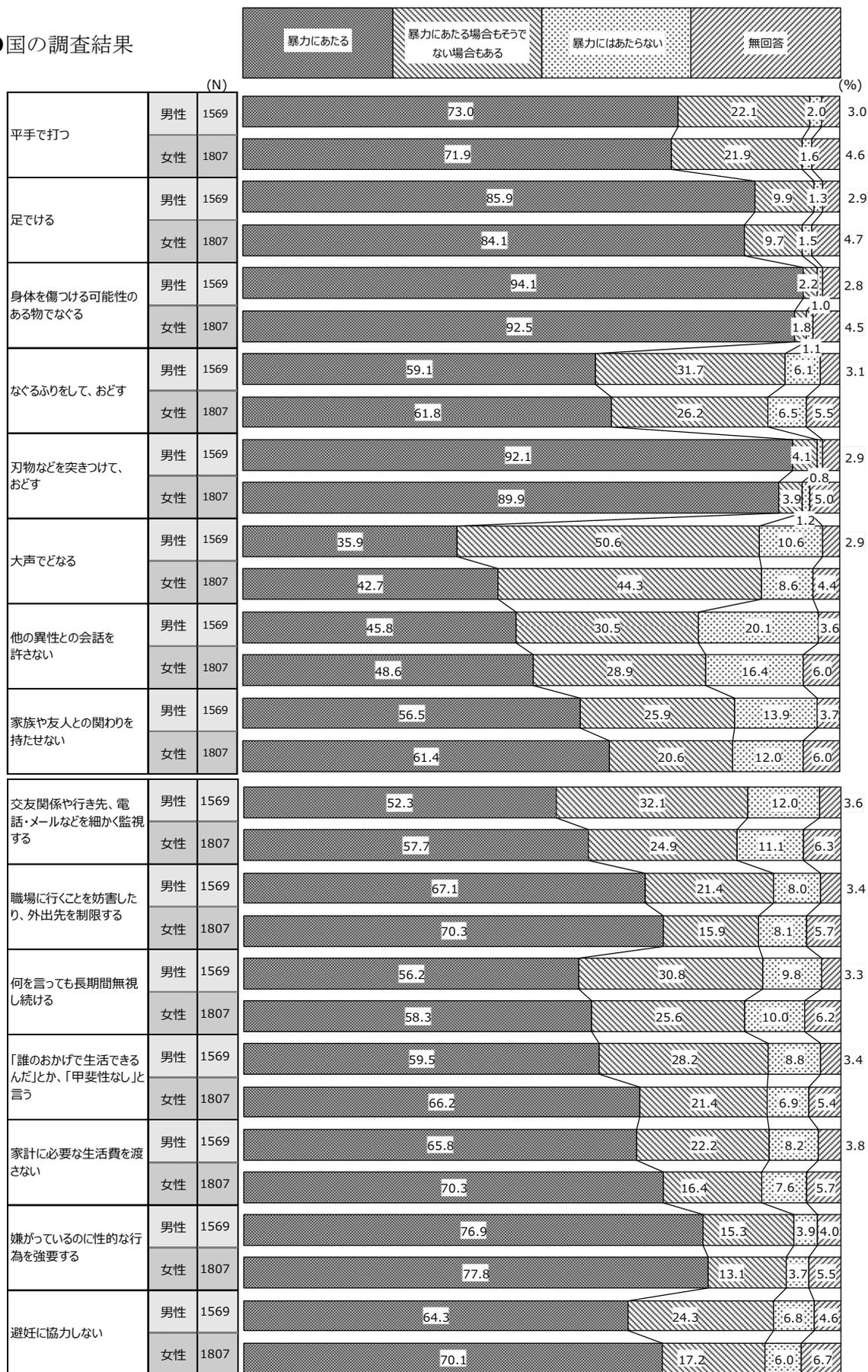
性別でみると、いずれのケース・場面も「暴力にあたる」と考える女性の割合が男性を上回っており、その差は『外出しないように言う』『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』『見たくないのにポルノ等を見せる』『避妊に協力しない』で13～14ポイントと大きい。



■性別



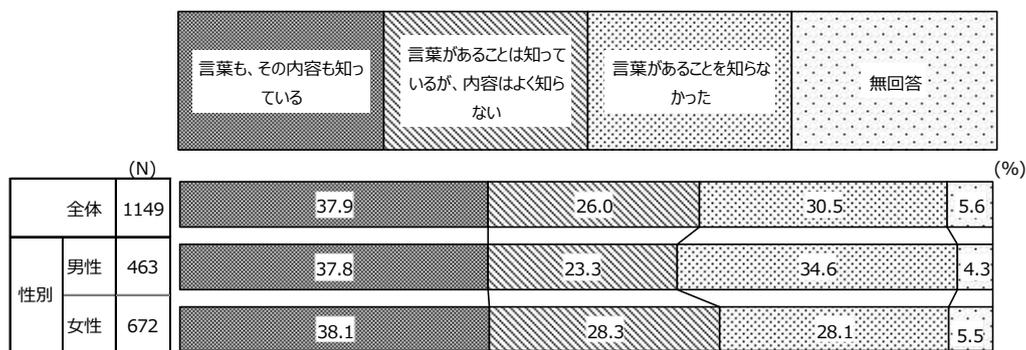
● 国の調査結果



国の調査では、「足でける」「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」などの身体的暴力は男女ともに「暴力にあたる」と考える人が多いが、精神的暴力である「なぐるふりをして、おどす」は男女ともに6割程度、「大声でどなる」は4割前後となっており、藤沢市の「殴るふり、怒鳴るなど脅す」が男女ともに8割であるのと比較すると、藤沢市の方が高くなっている。

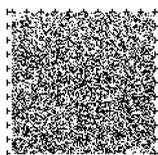
(3)「デートDV」という言葉の認知状況

Q24 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）



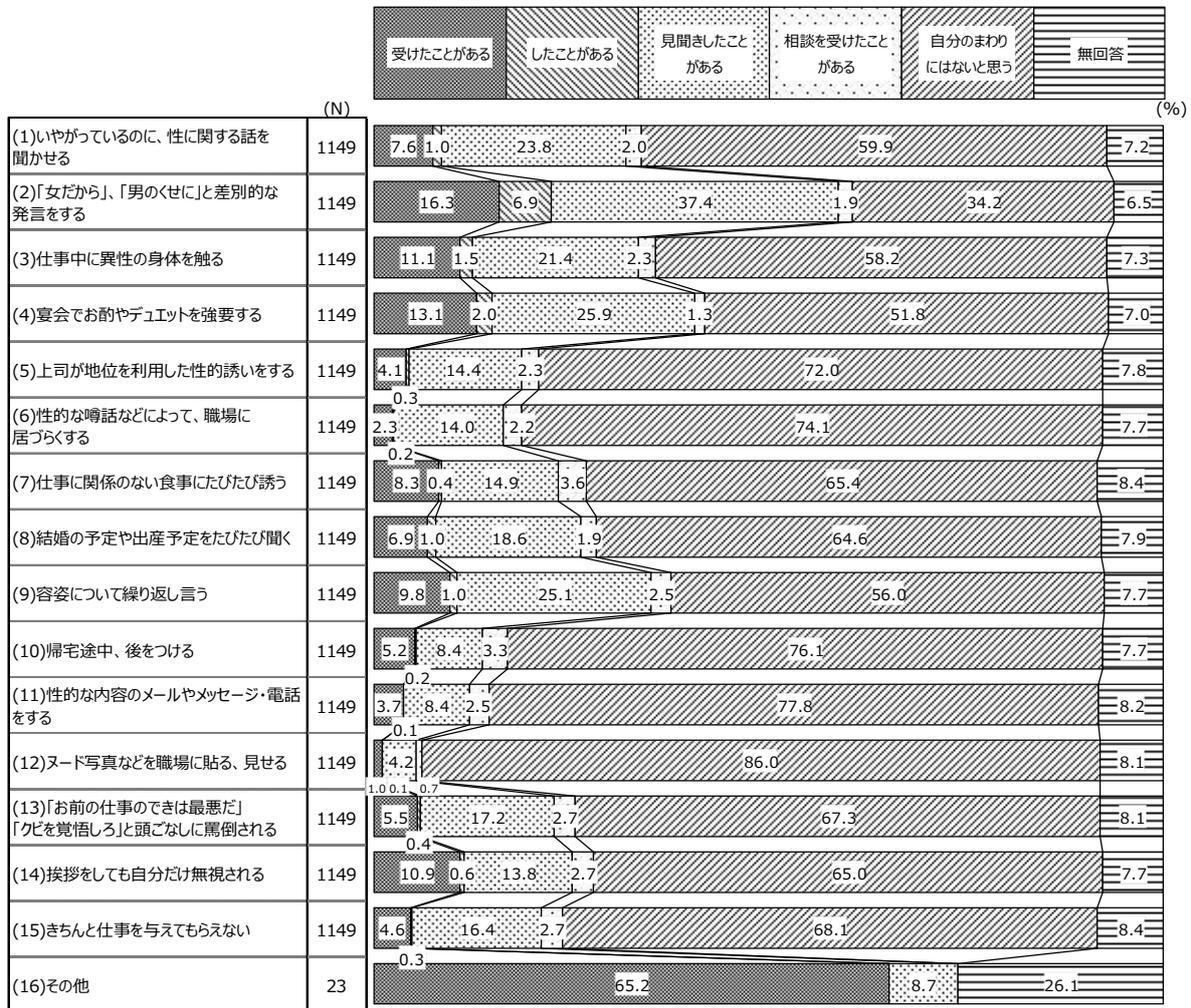
「デートDV（交際相手からの暴力）」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」が37.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が26.0%、「言葉があることを知らなかった」が30.5%となっている。

性別で見ると、男性は「言葉があることを知らなかった」が34.6%と女性よりやや高くなっている。

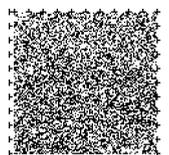


(4) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメントの経験

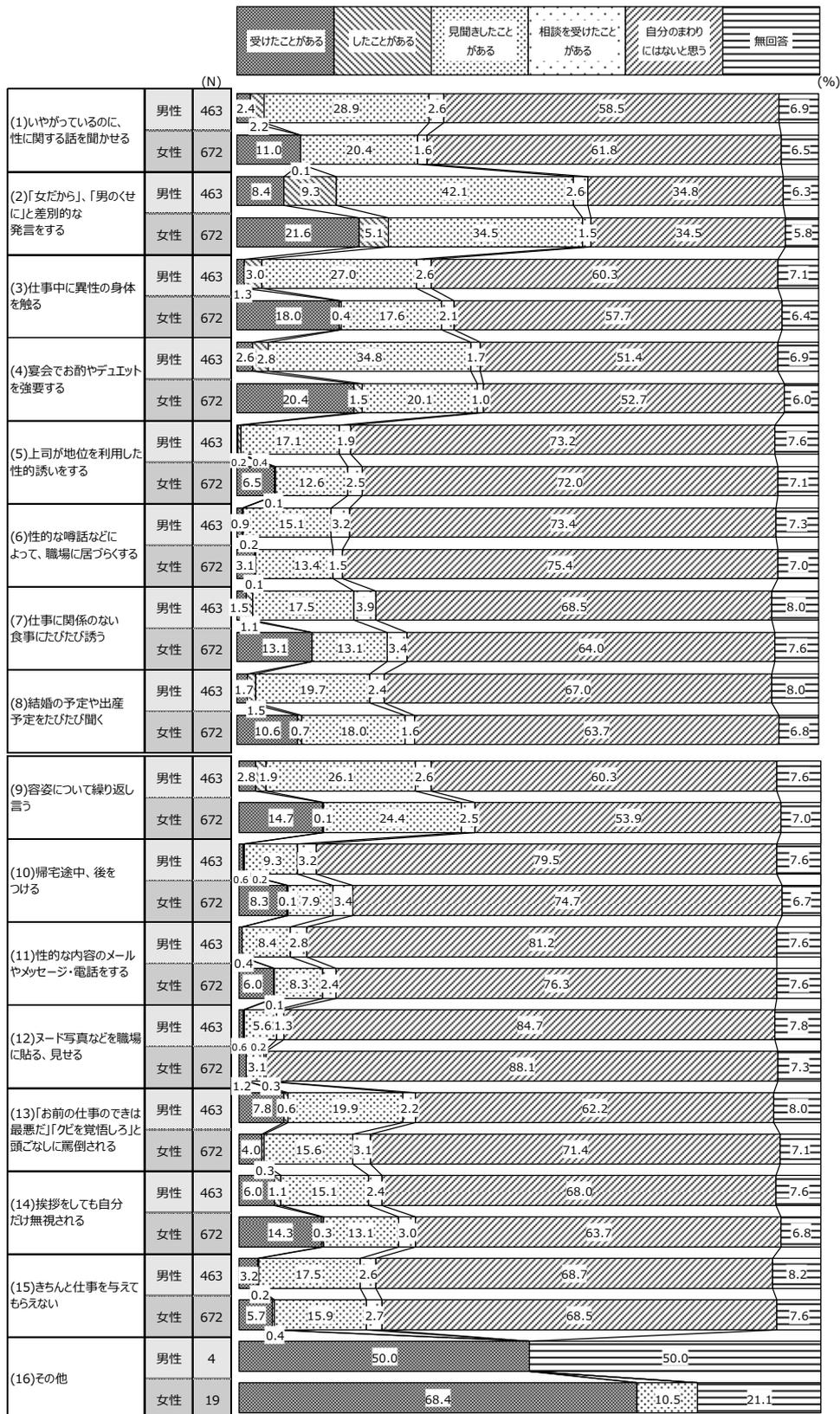
Q25 あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。((1) ~ (16) の各項目につきあてはまるものすべてに○)



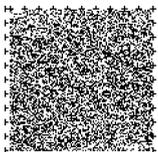
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験について、全体では「自分のまわりにはないと思う」が『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』と『その他』を除いた項目で高くなっている。「受けたことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が16.3%でもっとも高く、以下、『宴会でお酌やデュエットを強要する』(13.1%)、『仕事中に異性の身体を触る』(11.1%)、『挨拶をしても自分だけ無視される』(10.9%)、『容姿について繰り返し言う』(9.8%)の順となっている。「したことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が6.9%でもっとも高い。「見聞きしたことがある」も『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言』が37.4%でもっとも高く、以下、『宴会でお酌やデュエットを強要する』(25.9%)、『容姿について繰り返し言う』(25.1%)、『いやがっているのに、性に関する話を聞かせる』(23.8%)、『仕事中に異性の身体を触る』(21.4%)が続く。「相談を受けたことがある」は、『仕事に関係のない食事にたびたび誘う』が3.6%でもっとも高くなっている。



■性別

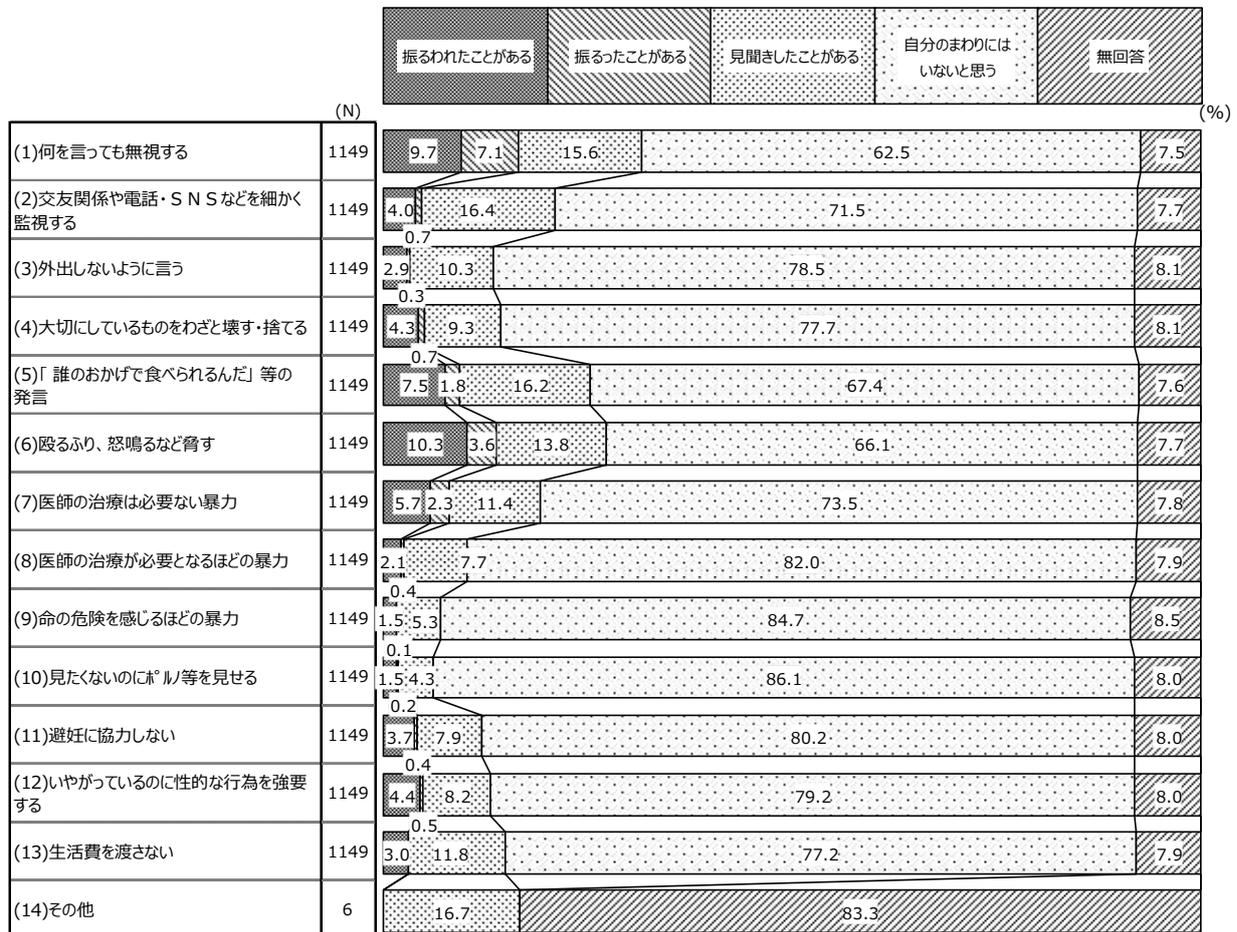


性別でみると、女性では『「女だから」「男のくせに」と差別的な発言をする』『宴会でお酌やデュエットを強要する』を「受けたことがある」が21.6%、20.4%と高い。「見聞きしたことがある」では、『宴会でお酌やデュエットを強要する』が男性34.8%で女性より14.7ポイント高くなっている。



(5) 配偶者・恋人間での暴力に関する経験

Q26 あなたは、配偶者・恋人から、次のような暴力を振るわれたり、あるいは配偶者・恋人に暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはありますか。(1)～(14)の各項目につきあてはまるものすべてに○)

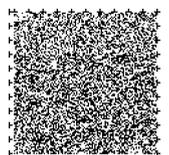


配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験については、全体では「自分のまわりにはいないと思う」が『その他』を除いた項目でもっとも高くなっている。

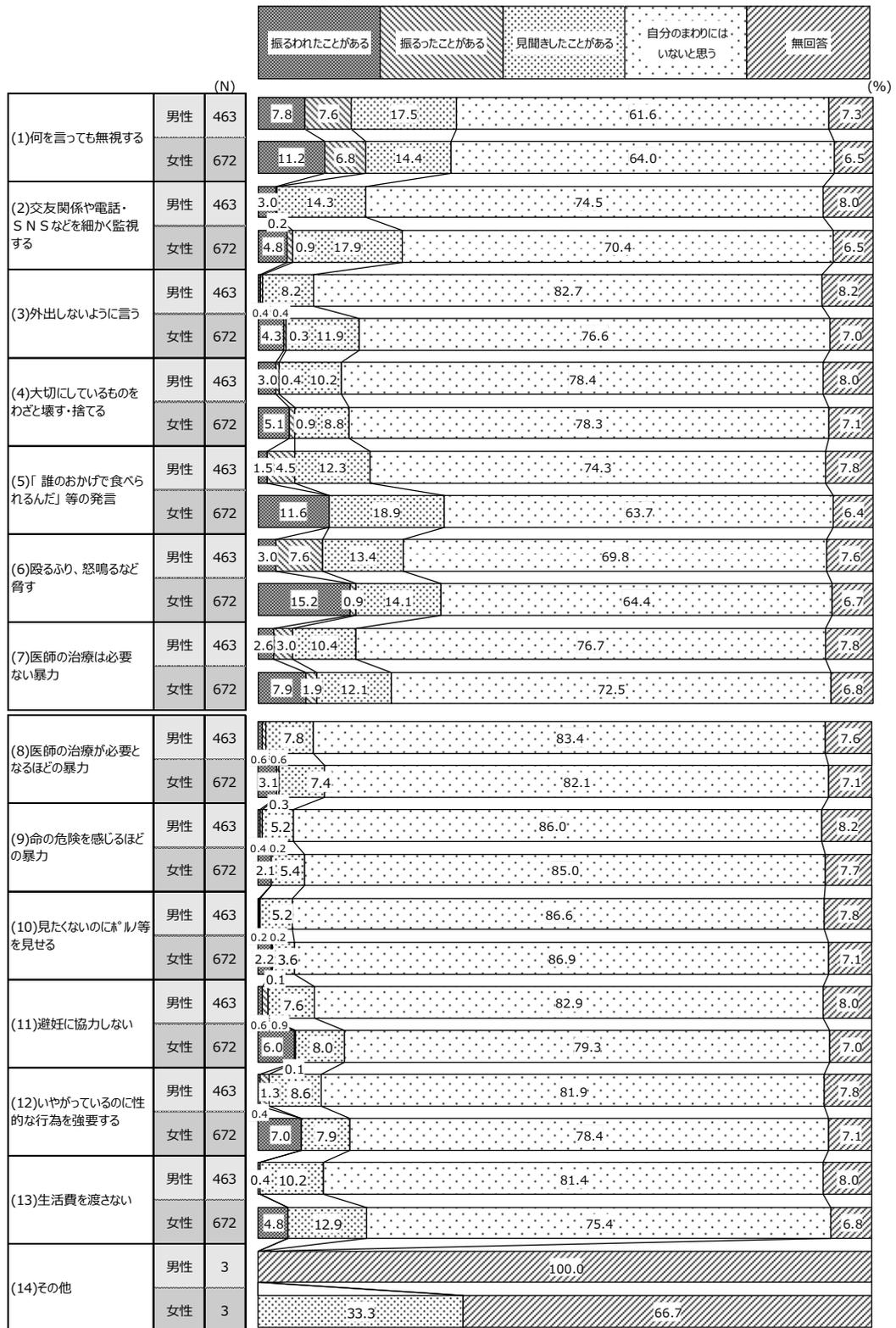
「振るわれたことがある」は、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』が10.3%でもっとも高く、以下、『何を言っても無視する』(9.7%)、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』(7.5%)の順となっている。

「振るったことがある」は、『何を言っても無視する』が7.1%でもっとも高くなっている。

「見聞きしたことがある」は、『交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する』が16.4%でもっとも高く、以下、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』(16.2%)、『何を言っても無視する』(15.6%)、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』(13.8%)の順となっている。

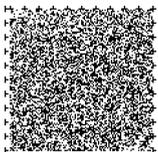


■ 性別



性別でみると、「振るわれたことがある」では女性で『殴るふり、怒鳴るなど脅す』『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』『何を言っても無視する』が15.2%、11.6%、11.2%と男性より高い。

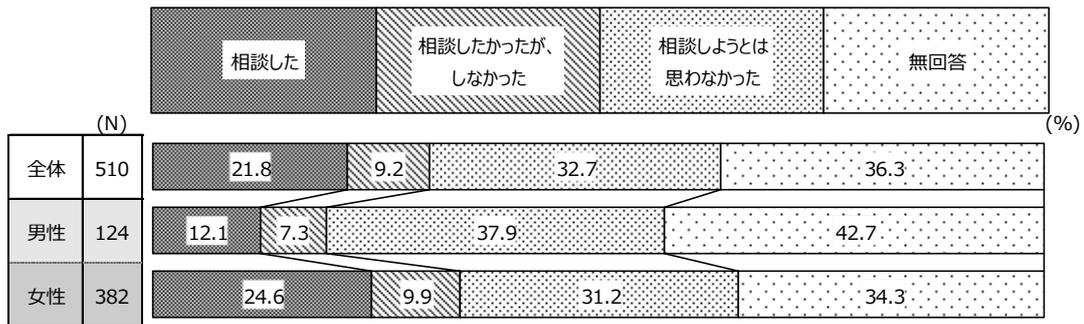
「見聞きしたことがある」では、男性で『何を言っても無視する』が17.5%と高く、女性で『誰のおかげで食べられるんだ』等の発言』18.9%、『交友関係や電話・SNSなどを細かく監視する』が17.9%と高くなっている。



(6) セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等の被害を受けた際の相談の有無

①相談の有無

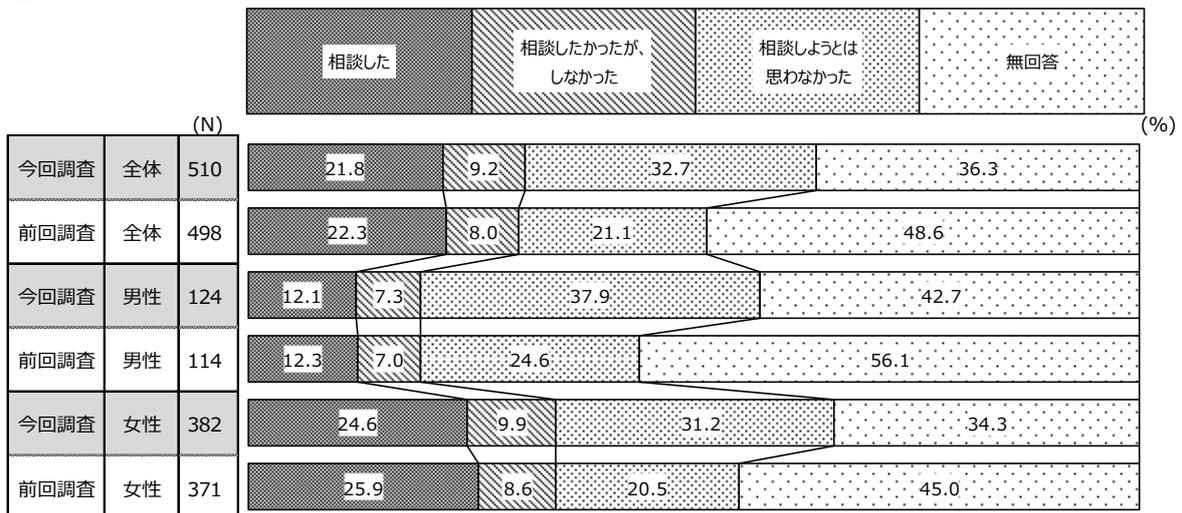
Q27 Q25でセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを「1. 受けたことがある」、ならびにQ26で暴力を「1. 振るわれたことがある」とお答えの方におたずねします。あなたは、このような行為を受けていることについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)



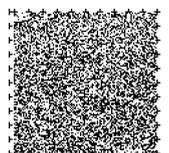
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験がある人のうち、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人は21.8%、「相談したかったが、しなかった」人は9.2%、「相談しようとは思わなかった」人が32.7%となっている。

性別でみると、男性は「相談しようとは思わなかった」が37.9%と女性（31.2%）よりやや高く、女性は「相談した」が24.6%と男性（12.1%）より12.5ポイント高くなっている。

◎経年比較

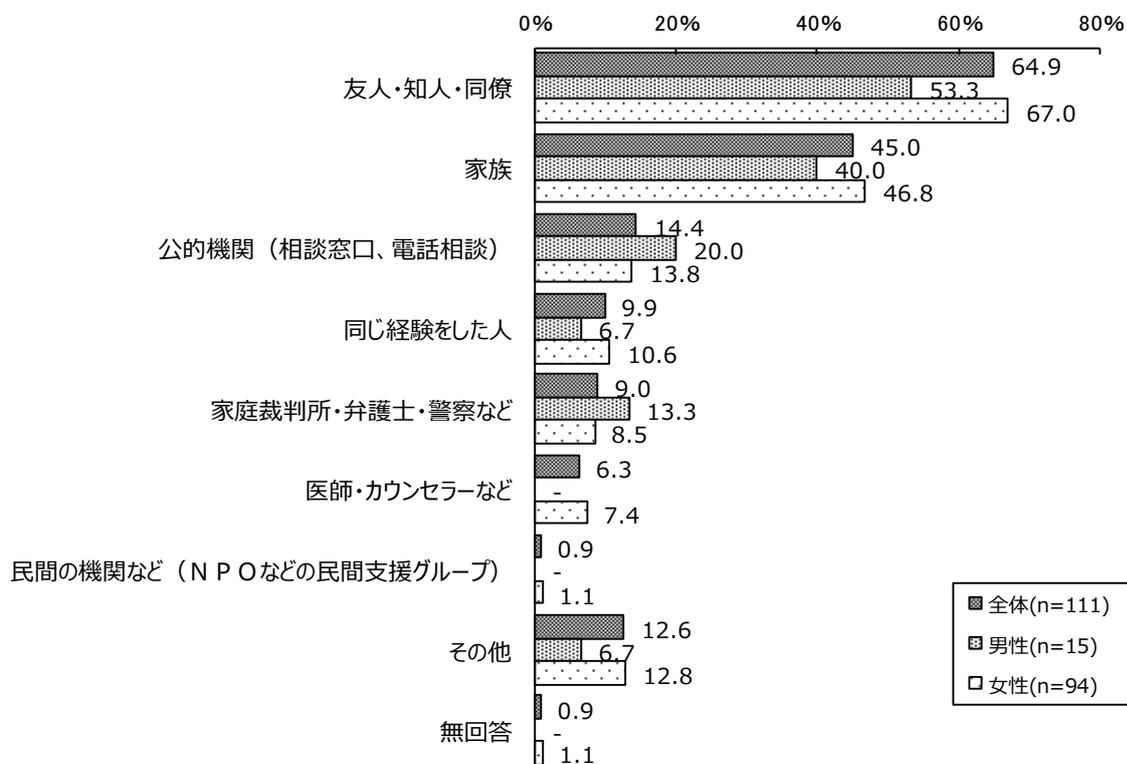


前回調査と比較すると、全体では「相談しようとは思わなかった」は前回調査より11.6ポイント増加しており、男性で13.3ポイント、女性で10.7ポイントの増加となっている。



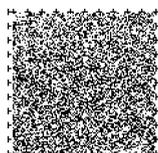
②相談先

Q27-1 Q27で「1. 相談した」とお答えの方におたずねします。実際に、どこ（だれ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）



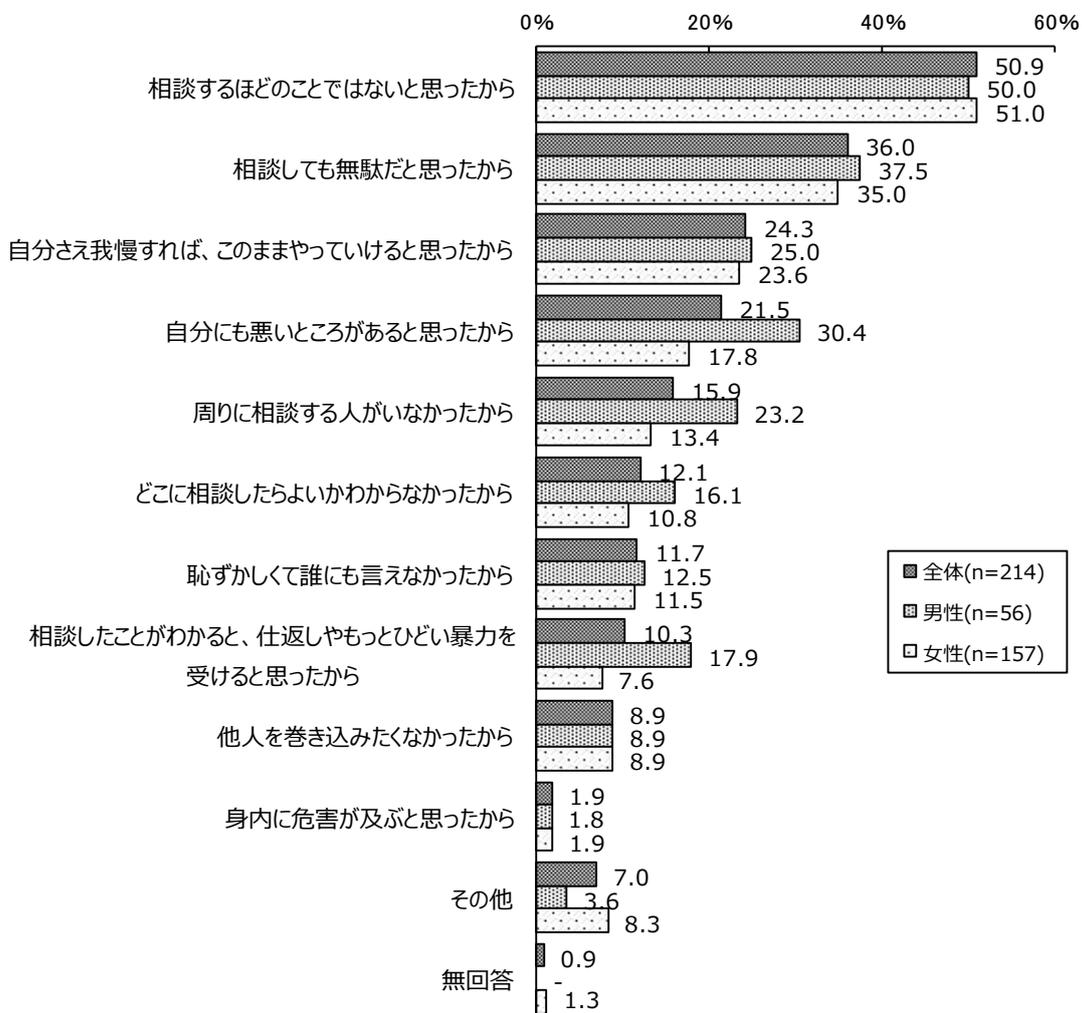
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験があり、誰かに打ち明ける、あるいは「相談した」人の相談先は、「友人・知人・同僚」が64.9%でもっとも高く、次いで「家族」が45.0%となっている。

性別で見ると、男性は「公的機関（相談窓口、電話相談）」が20.0%と女性（13.8%）より高く、女性は「友人・知人・同僚」が67.0%で男性（53.3%）より13.7ポイント、「家族」が46.8%で男性（40.0%）より6.8ポイント高くなっている。



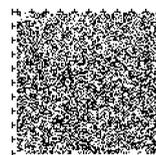
③相談しなかった理由

Q27-2 Q27で「2. 相談したかったがしなかった」、「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方におたずねします。どこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)



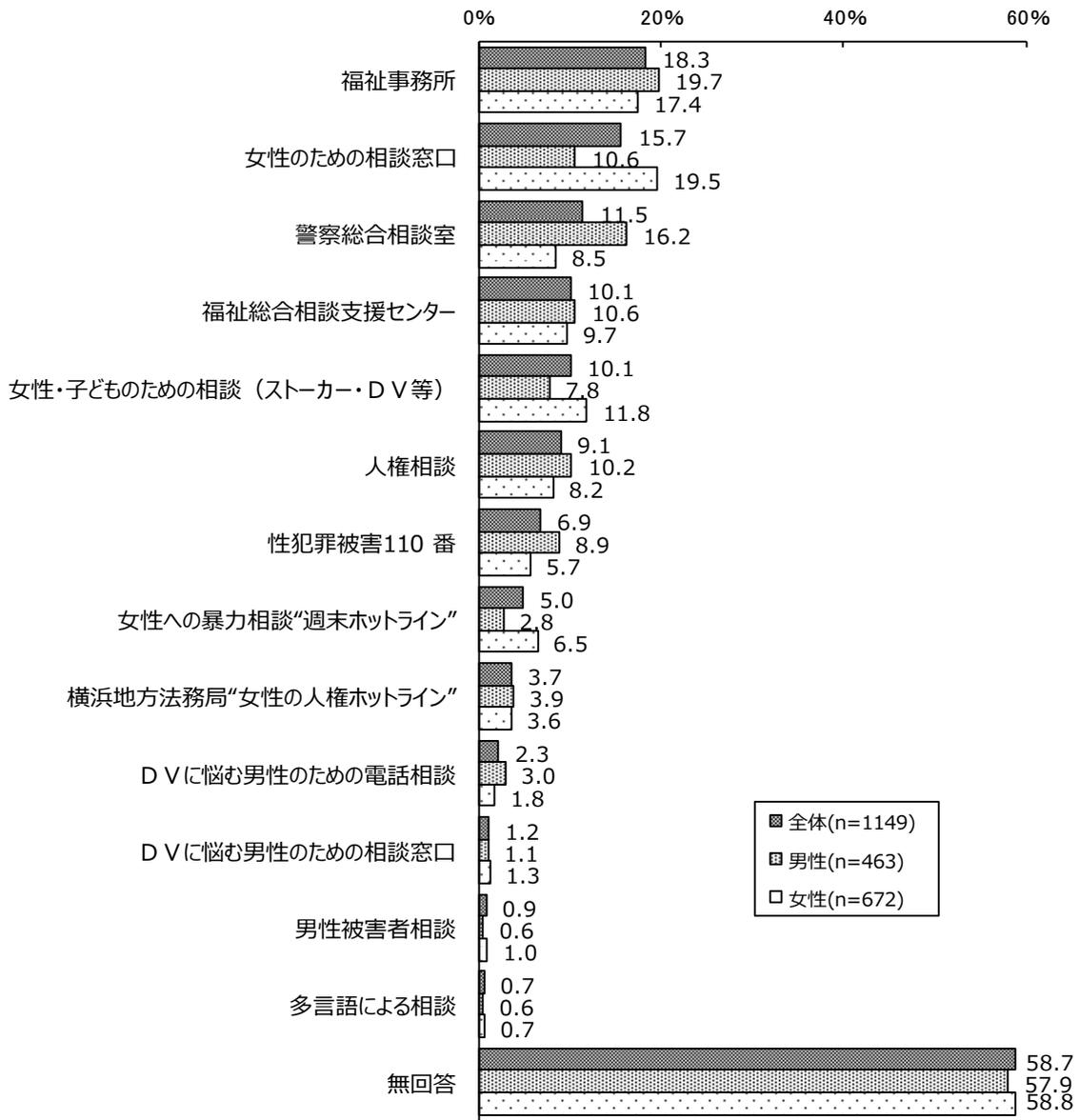
セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント等の被害経験があっても、「相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が全体50.9%、男性50.0%、女性51.0%でもっとも高くなっている。次いで「相談しても無駄だと思ったから」が全体36.0%、男性37.5%、女性35.0%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が全体24.3%、男性25.0%、女性23.6%となっている。

性別でみると、男性は「自分にも悪いところがあると思った」が30.4%で女性（17.8%）より12.6ポイント、「周りに相談する人がいなかった」が23.2%で女性（13.4%）より9.8ポイント高くなっている。



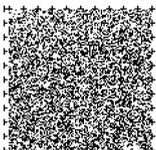
(7) DV等の相談先として知っているもの

Q28 あなたは、DV等の相談先として次のような窓口をご存じですか。(〇はいくつでも)



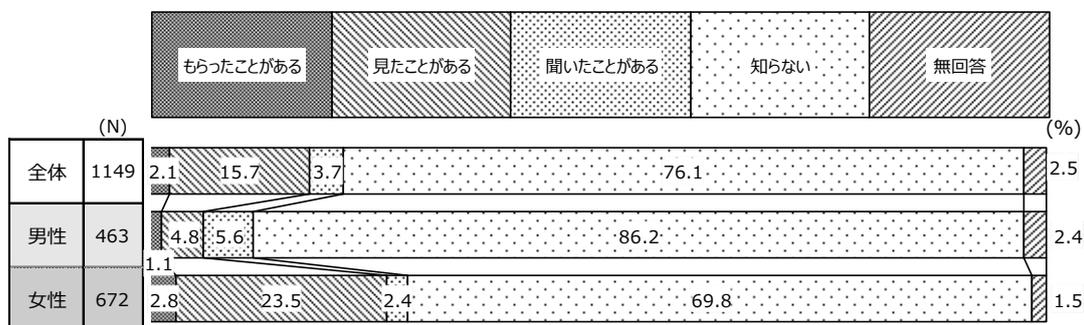
DV等の相談先として知っている窓口については、藤沢市の「福祉事務所」が18.3%でもっとも高く、次いで神奈川県「女性のための相談窓口」(15.7%)、神奈川県警の「警察総合相談室」(11.5%)となっている。

性別でみると、女性は「女性のための相談窓口」が女性19.5%で男性(10.6%)より高くなっている。



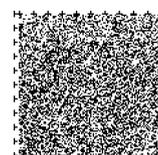
(8)「DV相談窓口案内カード」の認知状況

Q29 あなたは、「DV相談窓口案内カード」をご存じですか。(〇は1つ)

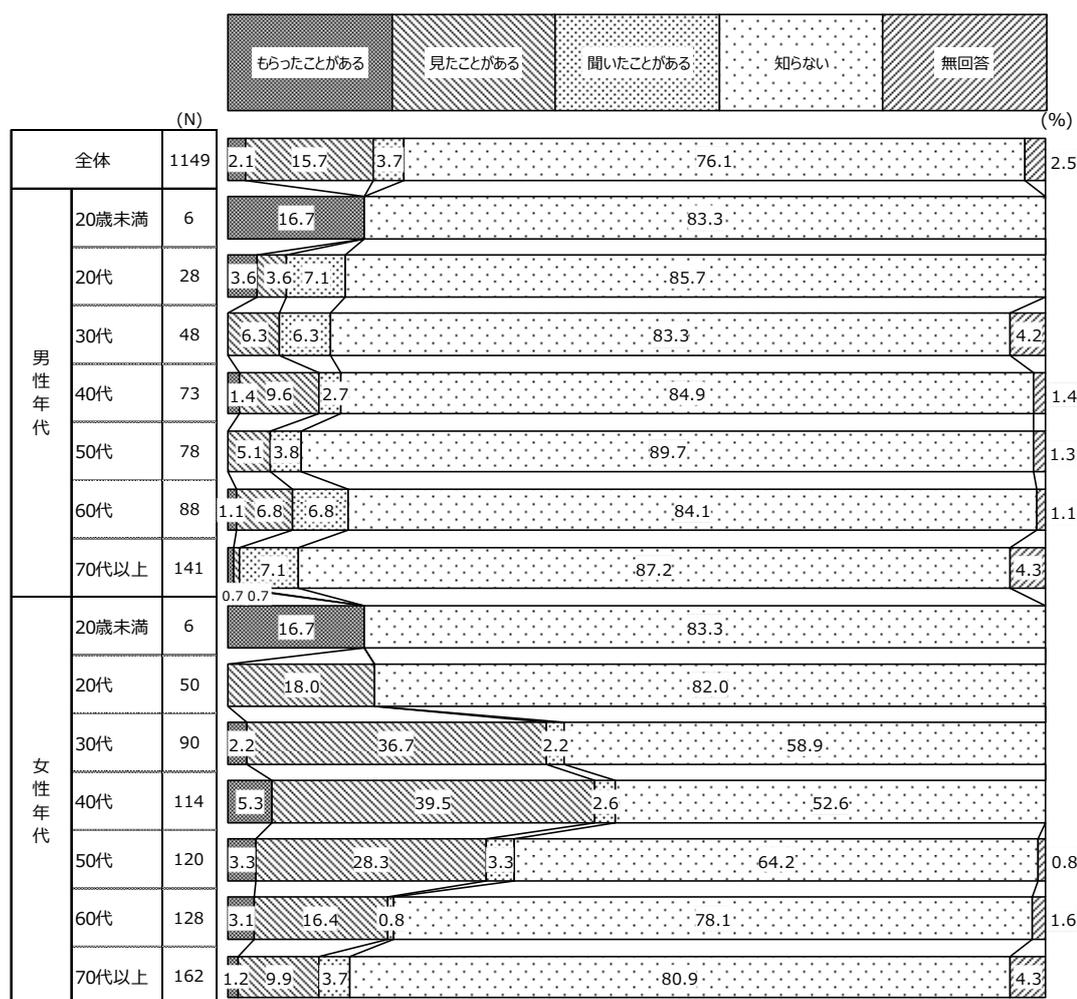


「DV相談窓口案内カード」については、全体では「知らない」が76.1%にのぼり、「もらったことがある」(2.1%)、「見たことがある」(15.7%)、「聞いたことがある」(3.7%)の合計は21.5%と認知度は低い。

性別で見ると、男性は「知らない」が86.2%で女性(69.8%)より16.4ポイント高く、女性は「見たことがある」が23.5%で男性(4.8%)より18.7ポイント高くなっている。

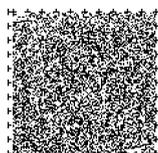


■性別・年代別



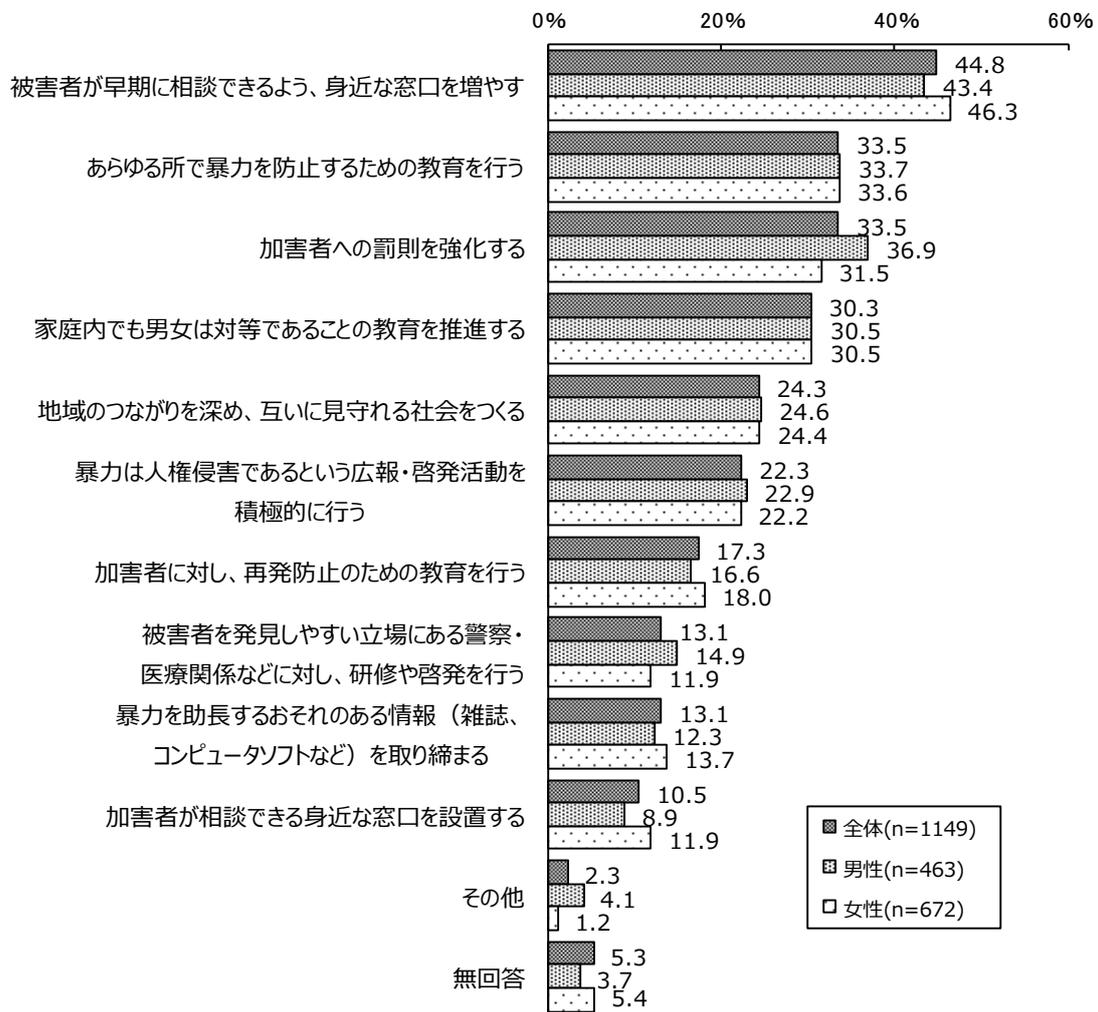
性別・年代別では、「知らない」が男性はすべての年代で8割以上と高く、これに対し、女性では20代、70代以上で8割以上と高くなっている。

「見たことがある」と「聞いたことがある」を合わせると、女性30代～50代で31.6～42.1%と高くなっている。



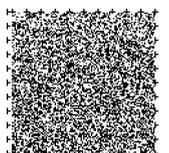
(9) DVを防ぐために重要だと思うこと

Q30 DVを防ぐには、どのようにしたらよいとお考えですか。(〇は3つまで)



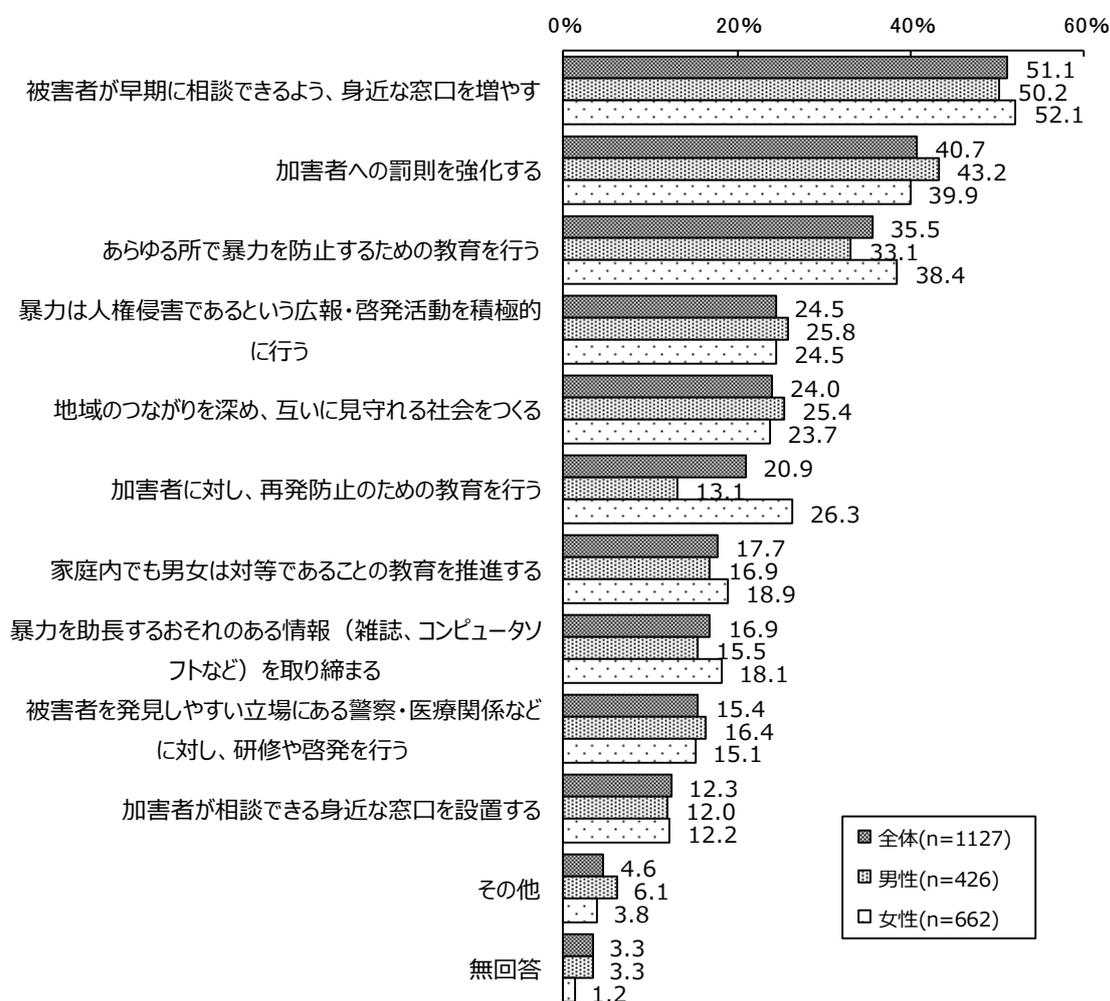
DVを防ぐために重要だと思うことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が44.8%でもっとも高く、次いで「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」(各33.5%)、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」(30.3%)となっている。

この回答は、性別による差が小さい。



【参考】 前回調査の結果

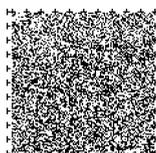
DVを防ぐために重要だと思われること



前回調査では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が全体で51.1%、女性52.1%、男性50.2%ともっとも高くなっている。次いで、「加害者への罰則を強化する」が全体で40.7%、男性43.2%、女性39.9%となっている。

また、「加害者に対し、再発防止のための教育を行う」が女性26.3%で男性（13.1%）より13.2ポイント高くなっている。

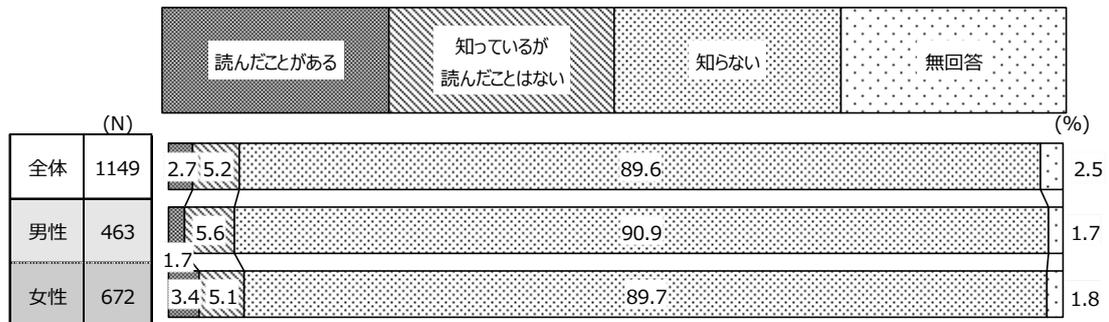
今回調査では、「家庭内でも男女は対等であることの教育を推進する」が前回調査より、全体で12.6ポイント高くなっている。



H 男女共同参画に必要な施策について

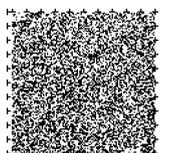
(1) 「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」の認知状況

Q31 あなたは、「男女が共に生きる情報紙 かがやけ地球」をご存じですか。(○は1つ)



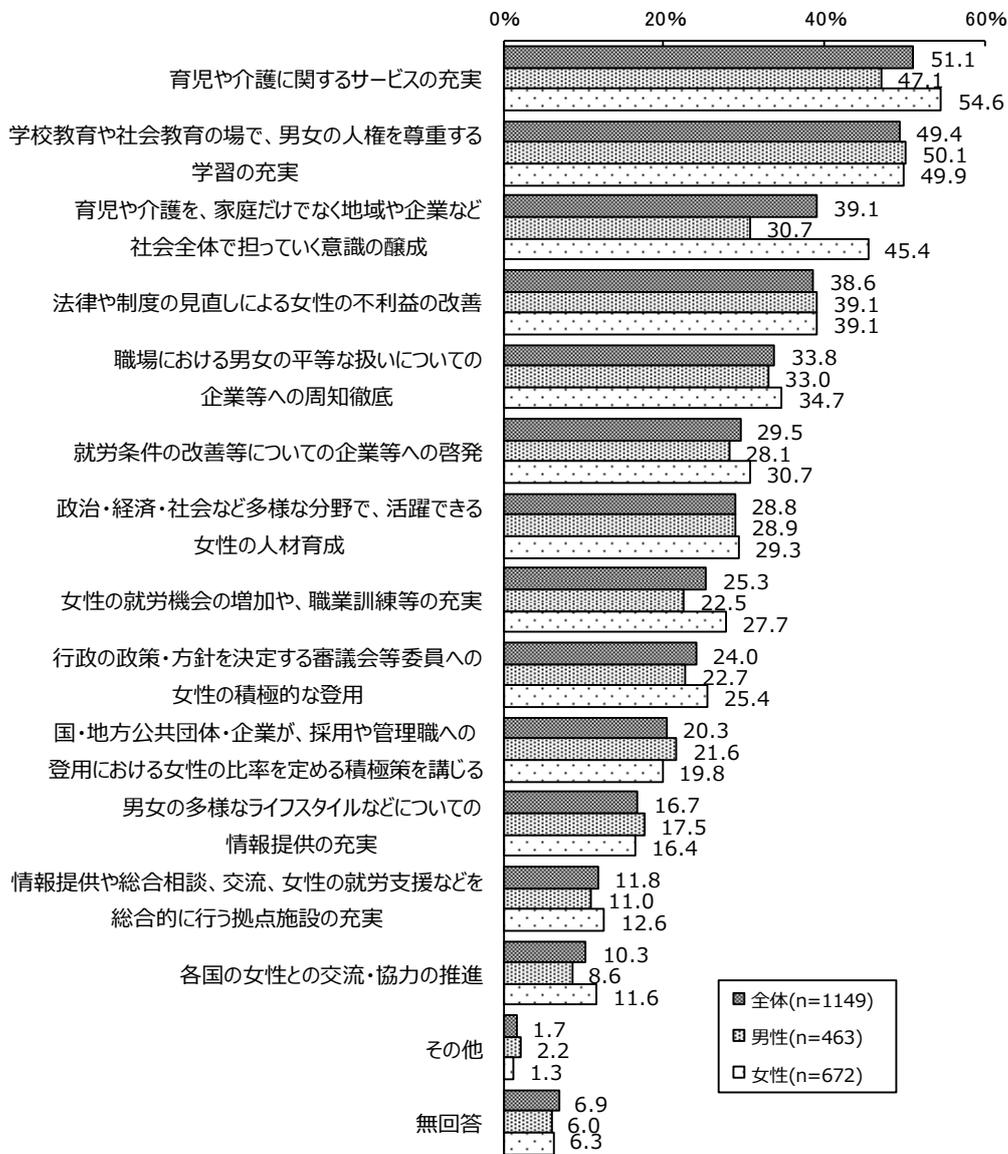
「男女が共に生きる情報紙、かがやけ地球」については、「知らない」が89.6%と多く、「知っているが、読んだことはない」が5.2%、「読んだことがある」が2.7%となっている。

性別でも同様に「知らない」が男女とも約9割を占めている。



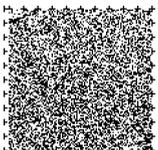
(2) 男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

Q32 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政の施策の中で何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)



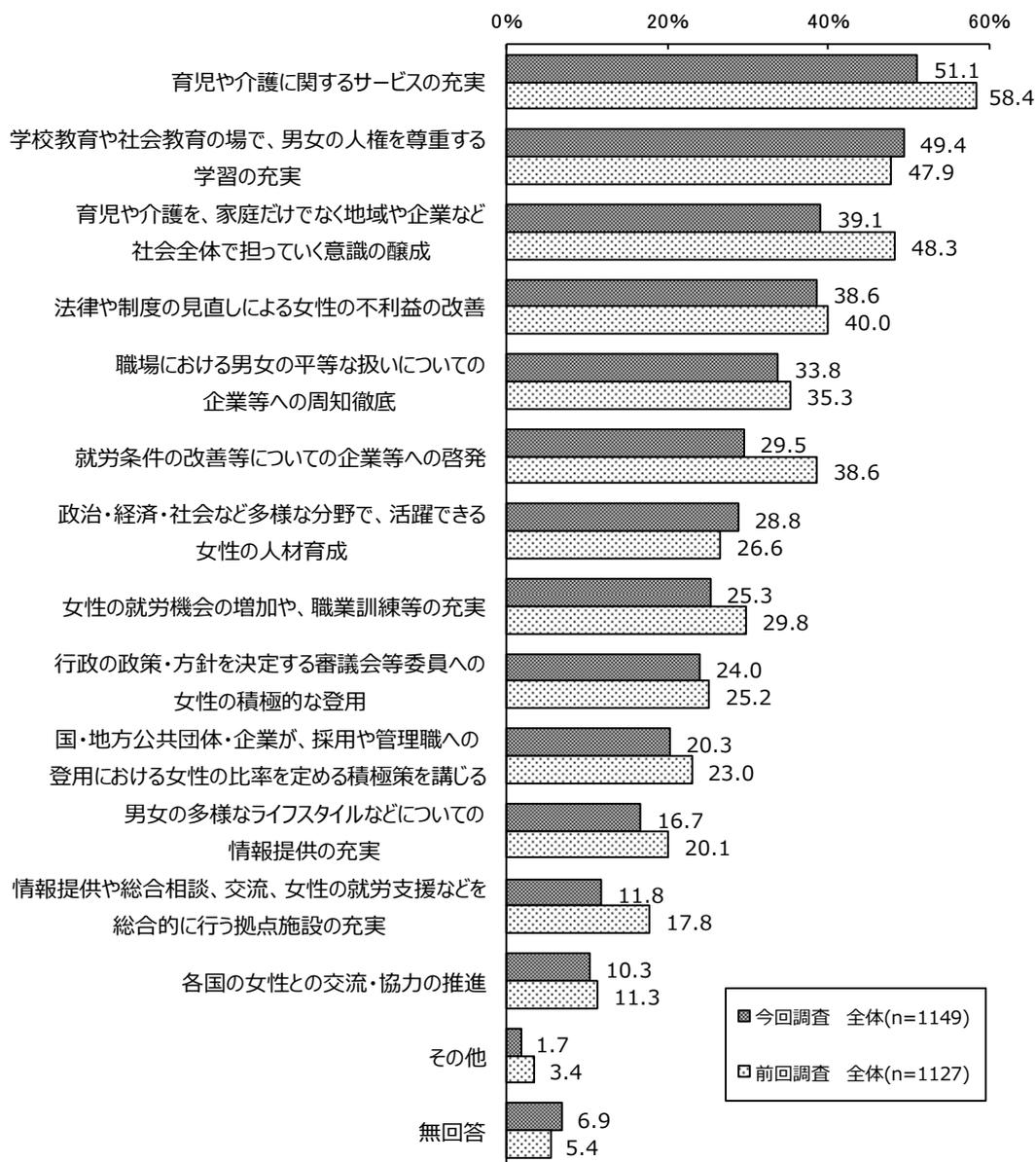
男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.1%)、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」(49.4%)が5割前後と高く、続いて「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」(39.1%)、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」(38.6%)が4割弱となっている。

性別でみると、女性は「育児や介護に関するサービスの充実」が54.6%で男性(47.1%)より7.5ポイント高く、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が45.4%で男性(30.7%)より14.7ポイント高くなっている。

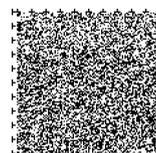


◎経年比較

男女共同参画社会を実現していくために行政に対して望むこと



前回調査と比較すると、今回調査では「育児や介護に関するサービスの充実」が前回から7.3ポイント減少しているが、もっとも高くなっている。また、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」は1.5ポイント増加、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」は9.2ポイント減少、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」は1.4ポイント減少しているが、それぞれ高い割合となっている。

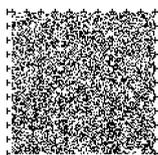


(3) 男女共同参画社会を実現していくためにできること

Q33 男女共同参画社会を実現していくために、あなたはどんなことができると思いますか。

男女共同参画を実現していくためにできることを聞いたところ、281件の意見が寄せられた。1人の回答者が複数の内容を記入している場合もあるため、件数は延べ件数となる。

男女共同参画の意識向上・取組	
男女共同参画意識の向上・理解の醸成	43
多様性を認める・相互理解・協力・協調すること	19
男女共同参画の学習・意識改革	18
意見・意思の表明、受入れ	16
男女共同参画の取組への参加	7
これまでの慣習の排除	4
家庭での取組	
家庭での教育	20
家事・育児・介護の協力・負担軽減	14
ワーク・ライフ・バランスの実践	4
働く場での取組	
仕事を通じた貢献・成果・経済的自立	13
女性や高齢者が働きやすい社会づくり	11
対等な扱い・能力による対等な評価	9
ロールモデルとなる・相談に乗る	5
ワーク・ライフ・バランスの促進	3
就労環境の整備・職場での働きかけ	1
女性の活躍支援	
女性が積極的に活動・活躍する	7
リーダー的存在への女性の登用促進	3
社会・地域での取組	
地域での交流・支援・ボランティア	18
選挙・パブリックコメントへの参加	6
公的な施策の必要性に関する意見	
学校・社会教育の充実が必要	6
法制度の見直しが必要	5
子育て支援・介護支援が必要	2
その他	
できることはない・考えたことがない・わからない	37
経済的・意識上の自立	6
男女の違いを尊重すべき・性別による特性を生かすべき	3
その他	21



■ 具体的意見

記入された主な意見は次のとおりとなっている。なお、紙幅の都合により、一部簡略化しているものもある。

【男女共同参画の意識向上・取組】

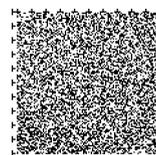
- ・周囲に惑わされず、男女は平等であると考え、暮らしていくこと。
- ・社会の対等な構成員としていくためには、男女ともに意識を変えなければいけないと思う。それぞれの権利ばかりを主張しては何もはじまらない。お互いに尊重しあって歩み寄る姿勢が大切だと思う。
- ・「あの人は男なのに・・・」など他人を見るときに性別から入らないようにする。その相手のパーソナリティと向き合うようにする。
- ・人権の尊重、男女平等、公平の啓もう。
- ・今回の様に考える機会を作る。自らの意思や意見を発信する。
- ・まずは書籍や人権講演会などに参加したりして、自分なりの勉強、意識づけ。それから周り（家庭・友人・職場）への働きかけ。
- ・日本の昔から根付いている、慣習を取り除く必要がある。

【家庭での取組】

- ・家庭内における役割の見直し、固定概念を持たないこと。
- ・家庭内役割の分担と子どもへの教育。
- ・家庭で、男女は平等であることを生活の中で教える。
- ・家事の負担軽減。
- ・家族及び身近な人への協力。
- ・ワーク・ライフ・バランスをもっと実現し、家庭に協力する。

【働く場での取組】

- ・働く楽しさを広める、協力しあう。
- ・女性が安心して働ける環境の実現、保育園や学童を充実させるとともにそこで働く人の待遇を良くすることを伝えていくこと。
- ・女性が働きたいと思う環境作り。
- ・自分が女性だからという理由で働く意欲を失わないようにすること。
- ・子育てに伴う退職など社内で相談を受けた場合は積極的に相談に乗り、又上長などに働きかけをし、相談者が退職せずに済む方法を共に考えていきたい。
- ・働く女性のロールモデルになること。育児、介護が必要な人をサポートする働き方をすること。
- ・後輩の悩みをきく。セクハラやパワハラがあったら相談にのり、しかるべき機関に訴える。
- ・その人の能力、経験、資格（検定等の）をふまえて、年齢、性別で差別をしない企業の姿勢が必要。
- ・男性も子育てに参加しやすい職場環境をつくる。
- ・まずは男性が家庭にいる時間をふやすよう企業がかかわらないとこの状態はかわらないと思う。



【女性の活躍支援】

- ・自分自身が積極的に社会で活躍する。
- ・女性も積極的に社会へ貢献していくこと。

【社会・地域での取組】

- ・日々の生活の中で地域活動の協力と友人、知人との交流を持ち明るく健康な生活を過ごすことができると思っています。
- ・今後お年寄りや障がいのある人のためのボランティア活動に参加すること。

【公的な施策の必要性に関する意見】

- ・議員選挙等がある場合の積極的な投票。
- ・情報提供や総合相談、交流など女性就労支援を行う拠点施設の充実。
- ・法律や教育など様々な環境整備が必要。
- ・会社に法律で強制的に促していくしかないと思う。

【その他】

- ・1人1人が人をたよって生きるのではなく男性も女性も自立する。
- ・自分自身の経済的自立。

